

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第48週 （11月27日～12月3日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

第47週の全国インフルエンザ報告数が、定点当たり1.47と流行開始の目安となる1.00を上回りました。第48週の高知県全域では、インフルエンザの報告は8例あり、定点当たり0.17です。迅速診断ではインフルエンザA型が4件、インフルエンザB型が3件、不明1件となっています。

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンには、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められており、ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われています。予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

＜予防方法＞ 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の4.43から第48週では3.80と横ばいです。県全域から報告があり、高知市、中央東で減少していますが、安芸、中央西で急増、須崎で増加しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルスが7例、細菌のカンピロバクター属菌や病原性大腸菌、サルモネラ属菌を原因とする胃腸炎4例の報告もあります。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも11例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○手足口病に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の1.00から第48週では0.53と減少しています。高知市、安芸、幡多で急減していますが、中央西で急増しています。

定点医療機関からのホット情報では「手足口病増加」の報告がありますので注意して下さい。

病原体検出情報では第44週に高知市から搬入された検体でEnterovirus 71が2件、第46週に高知市から搬入された検体でEnterovirus 71が1件、須崎から搬入された検体でCytomegalovirusが1件検出されています。

手足口病は、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

＜予防対策＞

- 接触感染を予防するために大人も子供も手洗いをしっかりすること。（タオルの共有はしない）
- 排泄物を適切に処理し（塩素系漂白剤には消毒効果があります）、しっかりと手洗いすること。
- 治った後も比較的長い間（2～4週間）便中にウイルスが排泄されるため日頃からの手洗いが大切。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

屋外活動の際にはダニに注意！

★日本紅斑熱や SFTS に注意しましょう

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児 には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製 剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製 剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★つつが虫病に注意しましょう

第48週につつが虫病の発生届けが5例ありました。

高知県では晩秋から冬にかけての報告が増加します。

ツツガムシは、日本紅斑熱の原因となるマダニと同じく、野山や畑、草むらなど野外のいろいろなところに生息するダニの一種です。その全てが病原体を持っているわけではなく、ヒトは病原体を持ったツツガムシの幼虫（0.2mm位）に刺されることによって感染します。

ツツガムシに刺された後、5日から14日程度で発症し、症状として「高熱・発疹・刺し口」の3つが特徴です。もしもと思った時は、早めに受診しましょう。

予防対策は、「ツツガムシに刺されない」ことが重要です。屋外に生息するダニなので、レジャーや農作業等で野山や草むらに入る時には肌の露出を少なくするなどマダニ予防と同じ対策を心がけましょう。

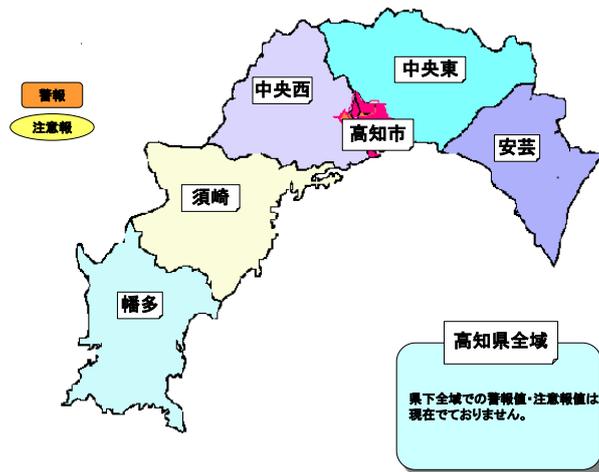
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	3.80	高知市、中央東で減少していますが、安芸、中央西で急増、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	1.33	須崎で急減していますが、中央東、安芸、中央西で急増、県全域で増加しています。
RSウイルス感染症	→	0.83	中央西で減少していますが、幡多で増加しています。
水痘	→	0.57	中央東、須崎、幡多で急減していますが、中央西で急増、高知市で増加しています。
手足口病	↘	0.53	高知市、安芸、幡多で急減、県全域で減少していますが、中央西で急増しています。

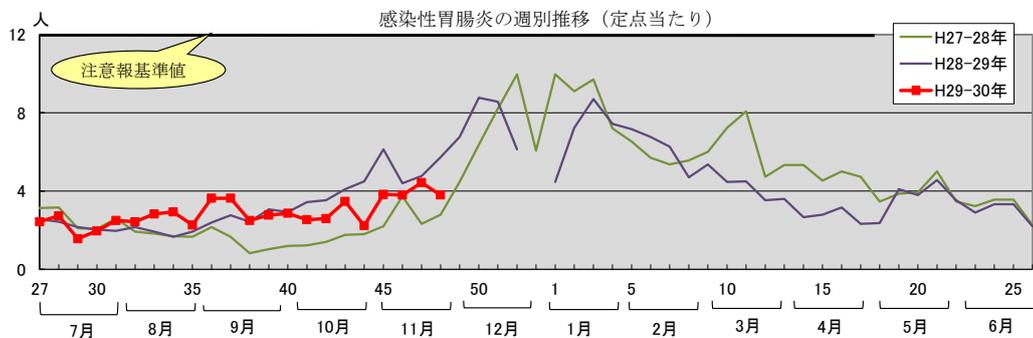
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

○感染性胃腸炎 第48週：3.80（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.80（前週：4.43）と横ばいです。高知市 3.36（前週：5.45）中央東 3.29（前週：4.57）で減少していますが、安芸 10.50（前週：3.50）中央西 0.67（前週：0.33）で急増、須崎 4.00（前週：2.50）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H28-H29のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
44	手足口病	発疹,口内炎,	1	男	高知市	Enterovirus 71
44	手足口病	発疹,口内炎,	2	男	高知市	Enterovirus 71
44	不明熱	41℃,嘔吐,嘔気,咳嗽,	1	男	須崎	Parechovirus 1
45	急性咽頭炎、インフルエンザ様疾患	40℃,上気道炎,	3ヶ月	女	幡多	Coxsackievirus A10
45	ヘルペス歯肉口内炎の疑い	40℃,口内炎,	2	女	幡多	Herpes simplex virus 1
46	ヘルパンギーナ	40℃,咳嗽,上気道炎,	2	女	高知市	Coxsackievirus A10
46	不明熱	38℃,	11ヶ月	女	須崎	Coxsackievirus B1
46	手足口病	39℃,	2	男	須崎	Cytomegalovirus
46	手足口病	38℃,発疹,口内炎,	2	男	高知市	Enterovirus 71
46	—	39℃,発疹,口内炎,	0ヶ月	女	高知市	Herpes simplex virus 1
46	気管支炎	38℃,咳嗽,気管支炎,発疹,	3	女	中央東	Herpes simplex virus 1 Human herpes virus 7
46	結膜炎	40℃,咳嗽,発疹,結膜炎,	2	女	中央東	Human herpes virus 7
47	ヘルパンギーナ	38℃,咳嗽,気管支炎,口内炎,	1	女	幡多	Coxsackievirus B5
47	感染性胃腸炎	嘔吐,嘔気,	3ヶ月	女	中央東	Echovirus 3
47	呼吸器感染症	39℃,	2	女	中央東	Human herpes virus 7 Herpes simplex virus 1
47	—	40℃,下痢,発疹,	1	男	幡多	Human herpes virus 6

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	104	20歳代 女	中央東
		1		80歳代 男	中央西
4類	つつが虫病	1	8	30歳代 女	中央東
		1		60歳代 男	
		1		70歳代 男	
		1		70歳代 男	
		1		70歳代 女	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	19	70歳代 女	須崎
	播種性クリプトコッカス症	1	3	60歳代 男	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	管内保育園で手足口病増加
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 8例 (1ヶ月女、5ヶ月男、6ヶ月女2人、1歳男、2歳女、4歳男、8歳女) サルモネラ 1例 (8歳女) インフルエンザ 1例 (2歳女)
	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター+病原性大腸菌 O-153 腸炎 1例 (2歳) 病原性大腸菌 O-25 腸炎 1例 (2歳) ノロウイルス腸炎 2例 (0歳、2歳) マイコプラズマ肺炎 1例 (12歳) アデノウイルス扁桃炎 2例 (1歳)
	細木病院小児科	ノロウイルス 2例 (11ヶ月女、2歳男)
中央西	石黒小児科	水痘 2例 (水痘ワクチン1回接種済み1人 (4歳女)、水痘ワクチン2回接種済み1人 (3歳女))
須崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎 3例 (4歳、9歳2例) ノロウイルス胃腸炎 3例 (1歳2例、2歳)
幡多	さたけ小児科	ヘルペス歯肉口内炎 1例 (7歳女)

★全国情報

第46号(11月13日～11月19日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核355例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症29例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、ジカウイルス感染症1例、重症熱性血小板減少症候群1例
つつが虫病29例、日本紅斑熱2例、日本脳炎1例、マラリア1例、ライム病1例、
レジオネラ症15例

5類感染症：アメーバ赤痢14例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例
急性脳炎6例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例
後天性免疫不全症候群14例、侵襲性インフルエンザ菌感染症3例、
侵襲性肺炎球菌感染症48例、水痘（入院例に限る）5例、梅毒62例、
播種性クリプトコックス症1例、破傷風1例、風しん1例

報告遅れ：エキノコックス症2例、つつが虫病3例、デング熱1例、日本紅斑熱2例、レジオネラ症7例
レプトスピラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎2例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒43例、
播種性クリプトコックス症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例

.....

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第48週 平成29年11月27日(月)～平成29年12月3日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第48週							計	前週	全国(47週)	高知県(48週未累計) H29/1/2～H29/12/3	全国(47週未累計) H29/1/2～H29/11/26
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ	インフルエンザ			1	3	2			2	8 (0.17)	3 (0.06)	7,280 (1.47)	14,666 (305.54)	1,391,506 (281.51)
小児科	咽頭結核膜炎				2				1	3 (0.10)	2 (0.07)	2,185 (0.69)	379 (12.63)	80,138 (25.38)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	9	18	1			10	40 (1.33)	32 (1.07)	7,725 (2.44)	2,360 (78.67)	321,166 (101.73)
	感染性胃腸炎		21	23	37	2	8		23	114 (3.80)	133 (4.43)	17,344 (5.48)	5,373 (179.10)	747,702 (236.84)
	水痘				10	7				17 (0.57)	19 (0.63)	1,478 (0.47)	561 (18.70)	51,253 (16.23)
	手足口病		7		8	1				16 (0.53)	30 (1.00)	3,885 (1.23)	3,294 (109.80)	346,981 (109.91)
	伝染性紅斑				1				1	2 (0.07)	(0.00)	250 (0.08)	114 (3.80)	11,146 (3.53)
	突発性発疹		2		6	1	1			10 (0.33)	13 (0.43)	1,317 (0.42)	506 (16.87)	67,040 (21.24)
	百日咳									(0.00)	(0.00)	33 (0.01)	25 (0.83)	1,497 (0.47)
	ヘルパンギーナ	1			2					3 (0.10)	14 (0.47)	568 (0.18)	597 (19.90)	84,546 (26.78)
	流行性耳下腺炎					1				1 (0.03)	(0.00)	853 (0.27)	192 (6.40)	73,481 (23.28)
	RSウイルス感染症	1	4	13	3	1		3		25 (0.83)	26 (0.87)	2,240 (0.71)	1,732 (57.73)	127,913 (40.52)
	眼科	急性出血性結膜炎									(0.00)	(0.00)	3 (0.00)	(0.00)
流行性角結膜炎										(0.00)	2 (0.67)	493 (0.71)	17 (5.67)	23,842 (34.31)
基幹	細菌性髄膜炎									()	(0.00)	13 (0.03)	6 (0.75)	483 (1.01)
	無菌性髄膜炎									()	(0.00)	14 (0.03)	7 (0.88)	892 (1.87)
	マイコプラズマ肺炎				1					1 (0.13)	2 (0.25)	164 (0.34)	85 (10.63)	7,449 (15.62)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									()	1 (0.13)	3 (0.01)	12 (1.50)	239 (0.50)
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)									()	1 (0.13)	10 (0.02)	88 (11.00)	4,901 (10.27)
計	(小児科定点当たり人数)	25 (12.50)	46 (6.53)	101 (9.01)	18 (5.72)	10 (5.00)	40 (7.85)	240 (7.86)			45,858	30,014 (809.97)	3,342,564	
前週	(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	57 (8.09)	102 (9.07)	11 (3.66)	7 (3.50)	50 (10.00)		278 (9.03)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第48週							計	前週	全国(47週)	高知県(48週未累計) H29/1/2～H29/12/3	全国(47週未累計) H29/1/2～H29/11/26
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ	インフルエンザ		0.09	0.19	0.40			0.25	0.17	0.06	1.47	305.54	281.51	
小児科	咽頭結核膜炎				0.18			0.20	0.10	0.07	0.69	12.63	25.38	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.29	1.64	0.33			2.00	1.33	1.07	2.44	78.67	101.73	
	感染性胃腸炎	10.50	3.29	3.36	0.67	4.00		4.60	3.80	4.43	5.48	179.10	236.84	
	水痘			0.91	2.33				0.57	0.63	0.47	18.70	16.23	
	手足口病		1.00	0.73	0.33				0.53	1.00	1.23	109.80	109.91	
	伝染性紅斑			0.09				0.20	0.07	0.00	0.08	3.80	3.53	
	突発性発疹		0.29	0.55	0.33	0.50			0.33	0.43	0.42	16.87	21.24	
	百日咳								0.00	0.00	0.01	0.83	0.47	
	ヘルパンギーナ	0.50		0.18					0.10	0.47	0.18	19.90	26.78	
	流行性耳下腺炎				0.33				0.03	0.00	0.27	6.40	23.28	
	RSウイルス感染症	0.50	0.57	1.18	1.00	0.50	0.60		0.83	0.87	0.71	57.73	40.52	
	眼科	急性出血性結膜炎							0.00	0.00		0.00	0.00	0.56
流行性角結膜炎								0.00	0.67	0.71	5.67	34.31		
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.03	0.75	1.01		
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.03	0.88	1.87		
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.25	0.34	10.63	15.62		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							0.00	0.13	0.01	1.50	0.50		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							0.00	0.13	0.02	11.00	10.27		
計	(小児科定点当たり人数)	12.50	6.53	9.01	5.72	5.00	7.85	7.86			809.97			
前週	(小児科定点当たり人数)	8.00	8.09	9.07	3.66	3.50	10.00		9.03					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2017年12月4日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。